

第22回 篠山再生計画推進委員会 会議録（要旨）

（記録：行政経営課）

- 日 時：平成30年10月17日（水） 9：30～11：30
- 場 所：篠山市民センター2F 研修室5
- 出席者：篠山再生計画推進委員会委員（出席8名・欠席1名）
政策部長
庁内関係職員（管財契約課4名）
事務局職員（行政経営課3名）

■傍聴者：なし

■会議次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 報告事項
篠山市公共施設等総合管理計画の進捗状況について（総務部管財契約課より）
- 4 協議事項
(1) 篠山再生計画進捗状況等の報告について
(2) 篠山再生計画進捗状況等の意見集約について
- 5 その他
- 6 閉 会

■ 会議要旨

1 開 会	
関係職員 I	（開会の宣言、欠席委員について報告、事前配付資料の確認）
2 あいさつ	
委員長	（委員長あいさつ）
3 報告事項（篠山市公共施設等総合管理計画の進捗状況について（管財契約課より））	
委員長	次第3の報告事項に入る。昨年度の委員会で報告のあった公共施設等総合管理計画（平成29年3月策定）の進捗状況について、総務部管財契約課から報告願う。説明と質疑を合わせて20分程度でお願いしたい。
関係職員 L	（公共施設等総合管理計画の進捗状況について説明） 現在の取組状況について説明する。 ○約1,400億円かかる公共施設等の更新費用は、今後40年間、現在の施設等をすべて保有し続け、同規模で更新した場合を想定し、算出したものである。大部分を占めるのが、上下水道と道路・橋梁等のインフラ資産である。これらは、人口が減少しても必要不可欠な施設のため、長寿命化の推進や施設の再編、適切なライフサイクルにより更新費用の抑制に努める。 ○上水道については、浄水場10カ所を7カ所に統廃合する予定。 （大山・畑井・小坂浄水場を順次廃止） 管路の標準耐用年数は40年だが、更新時期を設置後60年～80年として更新費用の分散を図る。 ○下水道については、下水処理施設の老朽化に合わせて、27施設を11施設に順次集約することとしている。平成31年度から管路更新計画に取り組む。

	<p>管路の標準耐用年数は50年だが、70年～100年に延長し、更新費用の分散を図る。</p> <p>下水道の管路更新に当たっては、上水道管路や道路舗装等の工事に合わせて工事費用を圧縮する。</p> <p>○道路については現在、維持管理のための対処療法的な舗裝修繕を行っているが、今後は予防的な舗裝修繕に切り替えたい。</p> <p>○橋梁については、「道路橋長寿命化修繕計画」により、定期的に点検や補修対策、修繕工事を実施している。</p> <p>○公共施設については、今後40年間で総延床面積を22%削減し、更新費用を年平均7.1億円に抑える。</p> <p>建て替えを行う際は、適正規模で行うことにより、床面積の縮減や施設の統合を行い、更新費用の削減を図る。</p> <p>○これらの長寿命化に取り組むため、本日資料として付けている「長寿命化指針」を作成し、平成32年度までに床面積500㎡超の施設ごとに長寿命化計画の個別計画を作成する。</p> <p>また、職員の手で日常的に点検ができるよう、「施設点検マニュアル」を作成した。建築物に重大な不具合や故障が生じる前に、適切に修繕・改修、予防保全を行うことにより、ライフサイクルコストを低減させる。</p> <p>また、更新費用は事業費ベースで積算しているが、有利な補助金や交付金を活用し、市の負担を抑えることも検討する。</p> <p>○最後に、平成28年度から30年度の3年間の公共施設の異動状況であるが、まず除却した公共施設は、解体が旧多紀支所など4施設、地元への移譲が5施設、売却が1施設の計10施設。</p> <p>取得した公共施設は、県から取得した旧篠山産業高校丹南校（現篠山学園）など譲渡や寄付が3施設、認定こども園など新築が7施設の計10施設。</p> <p>床面積は、除却3,178㎡に対し取得7,997㎡なので、この3年間では4,819㎡増加している。</p> <p>以上で、説明を終わらせていただく。</p>
委員長	今の説明で質問・意見はあるか？
委員A	「施設点検マニュアル」に関して、点検した後のPDCAはどのようになっているか？
関係職員L	年1回、6月に市民安全課がこの点検マニュアルをもとに施設点検をすることになっている。不具合があれば報告を上げて、その後はその程度によって財政協議、緊急性のあるものは補正、そうでないものは年次計画により進める。
委員A	積み残しなどが出る可能性はあるか？
関係職員L	緊急性がないものは1年遅れるとか、そういうことはあり得ると思う。
委員F	「施設点検マニュアル」に関して、点検は職員が行うとのことだが、今年の大阪地震でブロック塀倒壊の事故もあり、その原因調査のためには専門家の意見や視点も必要かと思う。その辺りの対応・対策は検討されたのか？
関係職員N	営繕担当の職員が、修繕等の際はその都度現場に確認に行く。建築物の状況をさまざまな視点で点検・監視し、気付いた点は施設管理者にここはどうなっているのかなど質問を投げかけている。細かくきっちりとは見れていない部分もあるとは思いますが、ある程度はチェックできている。
関係職員L	当課では1級建築士が1人、2級建築士が2人の有資格者がいる。各施設から相談があればアドバイスしたり、必要に応じてプロである専門の建築士に繋いだりしている。

委員長	<p>「長寿命化指針」では目標使用年数が80年となっているが、これは難しいと思う。壊れる前にきっちり維持管理をすることが大事である。少額の費用を削ったがために、すべて潰れてしまって大変な工事費がかかるということのないよう、適切な時期に適切な費用をかけて、長寿命化を図っていただきたい。</p> <p>ほかに質問・意見がなければ、管財契約課の説明は終わらせていただく。 (管財契約課4名退席)</p>
4 協議事項	(1) 篠山再生計画進捗状況等の報告について
委員長	次第4の協議事項に入る。今回の委員会開催の趣旨及び協議の進め方、(1)篠山再生計画進捗状況等の報告について、事務局より説明願う。
関係職員K	(委員会開催の趣旨及び協議の進め方、その後、(1)の篠山再生計画進捗状況等の報告のうち、「資料1」の進捗状況報告について説明)
関係職員J	(平成29年度決算の概要と健全化判断比率、財政収支見通しについて説明)
4 協議事項	(2) 篠山再生計画進捗状況等の審議および意見集約について
委員長	<p>今の説明では、</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生計画の進捗状況として、平成29年度の対19年度比の実績効果額は計画効果額に届かなかった。主な理由としては、職員の給料の見直し、公共施設の修繕費が増加したという内容である。 決算の概要も細かく説明いただいた。 今後の収支の見通しは、平成31年度に収支バランスが取れるという計画のもと、今後十分注意を払っていかねばならないこと。 最後に、昨年度の当委員会の意見・提案として市長にお渡ししたものの内容について、説明いただいた。 <p>平成30年度の意見・提案をいただいて、まとめに入りたいと思う。 意見がある方はお願いしたい。</p>
委員A	当初この行財政改革編を作った時の目標としては、収支均衡を図ること、それからこの実質公債費比率を18%未満にすることと認識しているが、それで間違いないか？
関係職員I	市としては、まず収支均衡を取ることが第一であり、その上で数少ない起債許可団体から早く脱却したいという思いはある。表向きには実質公債費比率はあまり出ていないが、方針としては持っている。
委員A	<p>先ほどの財政健全化を示す図で見ても、篠山市は依然財政状況が悪い。借金をするのに、①制限を受ける早期健全化団体(25%以上)、②許可が必要な団体(18%以上25%未満)、③協議不要で届出だけで済む団体(18%未満)の3つの段階がある。</p> <p>残念ながら篠山市は、全国でも数少ない第2段階の協議団体である。実質公債費比率については、起債許可が不要となる18%未満まで下がろうかというところまで来た。また、平成31年度に収支の均衡が取れるとのことで、当初の目標を1年前倒しで達成することになる。</p> <p>収支均衡は財政的には取り組みやすい方だが、実質公債費比率はそんなに簡単に減らせるものではない。そんな中、順調にやり遂げているのは高く評価すべきだと思う。</p> <p>この委員会で提言を出すとのことだが、今後の予定について、再生計画は31年度までで、31年度中に新しい計画の検討・策定に入って、32年度から新計画が動き始めるという理解でよいか？</p>

関係職員Ⅰ	<p>昨年度もこの会で提案いただいたが、31年度に再生計画に次ぐ次期計画の必要性を感じているし、計画を作るという方向性である。</p>
委員A	<p>意見を簡単に申し上げたいと思う。 30年度31年度に向けては、今の計画がちゃんと進捗したということを確認すると同時に、その中でも残されている課題をしっかりと精査する時期に入っていると思う。 公共施設の関係では、「長寿命化指針」6ページを見ると、2035年から39年の4年間にかけて、大規模改修が集中して事業費ベースで2倍近い財源が必要になる。これを平準化するのは並大抵のことではないので、結論は今ある施設を全部更新するのではなく、集約化する議論をしていく必要がある。 これはあくまでハコモノだけであって、1,400億円の更新費用のうち、道路・橋梁・上下水道といったところに大きな更新費用が集中しているわけで、その辺りも含めて、今後公共施設等の問題は、この委員会ではっきりした意見を伝えていく、特に個別計画作りを急ぐ必要があることを意見として申し上げる。 そして、30年度の位置付けは、今の計画と新しい計画を繋いでいく年であり、31年度に新計画を策定する際は、おそらく29・30年度の決算値を元に将来を考えることになるので、30年度中にやるべき改革はできるだけ進め、31年度の予算に向けては、行革をしっかりとやり遂げる計画にしていきたい。 それと同時に、昨年度の委員会でも、何のために行革をやるのか、まちづくりの財源をしっかりと捻出するためであるというご意見も出された。 それに対する市の対応を見ると、「評価」ということばが出てくるが、厳しい行革に取り組むばかり、まちづくりが細ってきては本末転倒かと思う。 意見として加えていただきたいのは、まちづくりの計画、大きく言えば総合計画と、人口減少をいかにして下げ止まりさせるかという地方総合戦略、この2つの計画の進捗状況を評価する仕組みを体系的に持っていただきたい。 そして次期行革計画は、行革の達成とまちづくりの達成と、常に同時進行で見えていけるような仕組みを取っていただきたい。 30年度31年度はそのための準備期間としていただきたい。</p> <p>それから意見として取り上げる必要はないが、小・中学校でエアコン設置の議論が出てくると思う。子どもの健康を守るためには乗り遅れてはならない問題である。行革の数字としては悪化するが、必要なことはやり、不要なものは整理を進めていただきたい。 我々としては行革をしっかりと進めてもらい、やり残した問題は何か、同時にまちづくりの進捗も見ていきたいと思う。 来年度に向けて結果を出せるようにしていきたい。</p>
関係職員Ⅰ	<p>エアコンについては、文科省から県を通じて調査が来ている。エアコンの普及率は近年高くなっており、篠山より北部の地域でも設置され始めている。国の方でも補正予算を組むなど財源措置、地方債の確保、交付税措置を考えている。 篠山市も設置する方向で、付けたとなると1億円は超えるので、近々投資的事業審査会でお世話になることが考えられる。 行革の観点としては後日の審査会で説明するが、財源としては、国庫補助金、地方債を活用した上で、自主財源の一般財源相当分については、義務教育施設整備基金や地方債を活用して平準化を図っていくという方向で検討している。</p>
委員長	<p>今のA委員のお話では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの取り組みについて評価をいただきつつも、32年度以降の新計画について慎重に取り組んでください。 ・公共施設の集約化が必要であり、道路・橋梁・上下水道等の維持管理費も十分考慮してください。 ・昨年度もご意見をいただいたが、行革をするのはまちづくりのためである。人口減少も踏まえた地方版総合計画も慎重に策定してください。

	<p>・再生計画は行財政改革編だけでなくまちづくり編もあるので、そちらの方も注意して力を入れていただきたい。 というご意見をいただいた。</p>
委員B	<p>清掃センターの件で、大規模改修で今回30億円近く出される。 地元の覚書で平成39年で現在地では操業しないことになっている。そこから撤退して新しい場所を探さないといけない。 平成14年に80億円余りを使って建てている。市としては今後それだけの投資は避けられない状況である。 このように莫大な費用のかかる計画がある中、どのように財政計画を立てていけばいいのか、A委員にお聞きしたい。</p>
委員A	<p>市の計画でこの平成39年度の数字は入っているのか？</p>
関係職員I	<p>更新費用はこの計画には入っていない。 昨年の投資的審査会でお世話になった施設の改修費用は、一般財源はほとんどあたっておらず、一部含まれているのは起債（借入金）の償還金であり、新規の建設の分についてはこの計画には入っていない。</p>
委員A	<p>80億円というのは予算的にも相当大きな金額だが、一般財源の負担は？</p>
関係職員I	<p>半分は国庫補助金で、残り半分の半分が交付税算入のある地方債ではなかったかと思うが、負担として大きいことは間違いない。</p>
委員A	<p>今回の財政推計には入っていないのは仕方ない。 次期の財政推計には、計画としてはあり得るが未確定として載せないものと、ある程度それを勘案して載せるものと2通り作成してはどうか。 そうすると厳しい状況も出てくると思う。その厳しい状況を前提としてまちづくりというのを考え変えていく。 簡単に載せればいい、載せない方がいいという話ではなく、動向を見ながらダブルスタンダードで考えていくという方法もある。 委員会としてはそういう計画は入っていないだけでは済まない問題だと思う。</p>
関係職員I	<p>清掃センターの検討委員会が現在休止中であるが、そこで一定の方向性は示されると思う。</p>
委員B	<p>30億円近くを投入して、それをなしにして新しく建設する。一般的には理解できないと思うが、市長の方針としては、地元との約束があるので、ゴリ押しはできず、地元の方の意見・考えを最優先するとのことである。 これは政治的な判断でどうなるか分からないが、金額が大きいだけに長期の財政計画を立てるに当たっては、無視できないと思ったから尋ねてみた。</p>
委員長	<p>39年で契約どおり立ち退くということになれば、40年度からどこかの場所で縮小されるにしても新たな設備が必要なわけで、それを造るに当たっては地元交渉とか用地買収とかで4～5年はかかると思う。その前に本当に39年度なのかということ議論する必要があるし、すぐに取りかかる必要があるのでは？</p>
関係職員I	<p>おっしゃるとおり、用地交渉、補助金の話も出てくるし、もっと早い段階から協議する必要がある。市もプロジェクトチームを作って協議しており、清掃センターの検討委員会に諮るはず。その結果を待って財政計画を考えたい。</p>
委員B	<p>委員の皆様にも、こういう問題があることを分かっていた良かった。</p>
委員長	<p>一般の施設の更新の他に、それとは別問題のこういう立ち退かなければならぬような施設はあるのか？</p>

関係職員 I	私の知る限り、この清掃センターだけである。
委員長	期限的な問題もあるので、注視する必要がある。
委員 C	今の清掃センターは、平成39年で廃止する見込みなのか？ 地元としては止めてほしいという契約になっているのか？
関係職員 I	市がお願いして設置している背景があるので・・・、難しい問題である。
委員 G	現実問題として代替地は見つかるものなのか？ 早めに詰めていかないと間に合わないのでは？ 一市民として心配である。
委員 E	意見提案としては、概ね去年と同じような内容になると思って聞いていた。削れるものは削るだけでなく、まちづくりの部分も力を入れて伸ばしていく、そういう両輪が大事。そういう計画が次期計画では必要だと思う。
委員長	京都は、観光で非常に人が増えている。行政としては、京都市に集中している観光客を周辺の市町村に広げていきたいということで、篠山市も観光・まちづくりに力を入れているが、さらに進めていただきたい。
委員 B	公民館にエレベーターが順次設置されているが、福祉面からも大事なことだとは思いますが、エレベーターは設置費用だけでなくランニングコストもかかる。会合などはエレベーターを使わずに済む1階を使えば、「こんな小さな公民館にエレベーターは必要ない、もったいない」という声も時々耳にする。厳しい財政状況であるならば、一律に設置するのではなく、節約できるところは少しでも節約することを考えてほしい。
関係職員 I	基本的に地元と調整した上で設置し、順次にやっているわけではない。今優先しているのは、「いきいき塾」とか大人数が入れるホールが2階にしかないような施設を選択しながら設置している。
委員 B	個人の税収が多少上がったとしても、大きな法人の収益が落ち込めば法人税がどんと下がる。収入を増やさないことには節約だけではどうしようもないところもある。何とか収入を増やす工夫をしていただきたい。
委員 C	節約すると同時に、伸ばすことも考えないといけない。京都は観光地で人が来る。京都の場合はそれでよい。ところが篠山の場合はどうか？ 観光客に来てもらうにはどうしたらよいか？ 篠山は観光で稼がないといけないと前回も言ったが、その観光自体がすごいスピードで変化している。観光と言っても、今までの観光ではまったくダメで、「子ども」を起点に考えないといけない。子どもさんに「あそこに行きたい」と思わせるような施設が篠山にできないか？ それが家族連れで来て、ひいては若い人が入ってきて人口減少防止に繋がるのではないか。過去の古い遺産も大事だが、それだけでは年配の方しか来ない。これからは新しいものも取り入れ、まったく違うものを考えないといけない。観光地、特に海外ではびっくりするような立派な施設ができています。そういうものが篠山にできたら変わってくると思う。
委員 D	「魅力あるまちづくり」をメインでやっていただきたい。無電柱化とか観光に向けたまちづくりもあるが、A委員がおっしゃったエアコンであるとか、エレベーターの問題とか、地域に住んでいる方にとっても魅力あるまちづくりを進めていただきたい。

委員長	<p>5分間だけ休憩に入る。10分か15分で取りまとめたい。その後、事務局から話をいただく。</p> <p>(休憩)</p>
委員長	他にご意見はあるか？
委員B	支所機能のことで、支所の窓口対応職員の人員確保が課題であると記載されている。私も支所に時々行くが、職員数が圧倒的に少ない。この課題に対してどのように解決しようと考えているのか？
関係職員I	<p>支所職員の負担を減らすために、本庁と支所との文書等のやり取りは本庁の職員が順番で逡送に回っている。近年、支所と公民館を地域コミュニティ課として一緒にして、融通が利くようにはしている。</p> <p>それでも、丹南支所などはお客さんが多いので確かに大変である。</p>
関係職員J	多紀支所など職員数が少ないところは、一人が休んだら一人だけになったりするの、本庁や他の支所と連携を取って応援に来てもらったりしているが、それも一時になると難しいと思う。
委員G	実質公債費比率であるが、平成39年度の見込みでは11.8%。全国平均は6.4%かと思うが、そこまで下げようとするのか？ それともそんなに無理せず、まちづくりに投資しようとするのか、その先の市の方針は考えているのか？
関係職員I	<p>まずは、起債許可が必要な18%は切りたい。ただ、18%を切ったところで、全国的に厳しい状況であることには変わりはない。実質公債費比率は低いにこしたことはない。</p> <p>実は一般会計だけで見るとかなり減っているが、特別会計である上水道と下水道には大きな投資をしており、償還期間が長く30年ぐらいなので、比率はなかなか減らない。下げる努力はするが、現実的に6%というのは非常に難しい。</p>
委員長	<p>他にご意見がなければ、取りまとめをさせていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と似たような論点になろうが、平成32年度の予算の再構築に向けて、31年度を考えていく。 ・公共施設等については、今回提出いただいた資料、長寿命化指針・施設点検マニュアルどおりに履行できているか。市職員もこれを念頭に置いて行政執行の徹底ができているか。 ・公共施設の集約化、施設の更新や移転等を見越した計画が必要である。 ・施設の更新費用は一時に集中するのではなく、平準化に努める。 ・再生計画の行財政改革編が我々委員の役目と言いながら、まちづくり編にも力を入れる。観光は今のままでいいのか、例えば子どもを対象とした施設などを考える。 <p>大まかではあるが、取りまとめとしては以上の内容かと思うが、ほか漏れているものはあるか？</p>
委員F	A委員がおっしゃった、行革とまちづくりそれぞれ費用のかけ方のバランス、それらの進捗評価ができるような仕組みを考えないといけない。大事なことであるので、意見として加えていただきたい。
委員長	<p>他にご意見があるようであれば、事務局に言っていただきたい。</p> <p>いただいたご意見は事務局と委員長・副委員長に一任いただき、意見の集約をしたい。その後、委員の皆様にもメールや郵送で送って、ご確認いただき、承諾を得るようにしたい。最終的に、委員会としての意見・提案書を市長に提出させていただきたいと思うが、それでよいのか？</p>

	(一異議なし) 今後のスケジュールについて、事務局から説明願う。
5 その他	
関係職員 I	長時間慎重審議をいただき、感謝申し上げます。 今後のスケジュールについて申し上げます。 本日いただいたご意見については、委員長・副委員長を中心に皆様と情報共有しながら意見・提案書としてまとめていただき、委員長から市長に提出していただく。提出時期は例年11月下旬であり、今年も同じ時期でと思っている。ご都合がよければできるだけ皆様に同席いただきたい。 その内容はホームページで公表する。 続けて、エアコンの整備について説明する。 にわかに国の動きがあり、国庫補助金や地方債を活用して、補正予算により、現在はほとんど付いていない小中学校のエアコンを整備する予定である。近々投資的事業審査会を開く可能性があるのも、その節はよろしくお願ひしたい。 また、以前の投資的審査会で、できるだけ市内の業者を活用すべきという提案をいただいた。直近分では大山のコミセンについて、市内業者に発注できるものはすべて市内業者を入れて対応していることを報告させていただく。 最後に確定ではないが、31年度から次期の再生計画を検討していく予定である。再生委員の皆様には引き続きお力を貸していただきたいので、またぜひともよろしくお願ひしたい。
委員長	ささやま荘の宿泊休止は、来年からか？ リフォームするとしたら、かなりの金額になると思うが。
関係職員 I	今のところ改修という話は聞いていない。
委員長	委員の皆様には2時間にわたり慎重審議いただき、感謝申し上げます。 以上をもって、第22回篠山再生計画推進委員会を終了させていただく。
6 閉会	
副委員長	(閉会の挨拶)